

# シニアオリエンテーリング

あいちシニアオリエンテーリング愛好会 444-0856 愛知県岡崎市六名1丁目5-6

No.7 2024.7

## オリエンテーリングのこれから

オリエンテーリングは自然の中で、国民の健康づくり、体力づくりをすることを狙いとして、1960年代に国の事業として北欧から導入された。総理府主導のもと、都道府県、新聞社を中心とするマスコミ、鉄道や企業の協力もあり、飛躍的に国民の間に広まった。また、会社内や学校内のイベントとしても採用され、誰もが一度は体験したことのあるスポーツであった。

現在においては、大会も全国の愛好者を集めることによって成り立たせており、地元の参加者が少なく、当初目的であった市町村民の健康づくりへの寄与が薄れてきており、行政のオリエンテーリングへの応援意欲を削いでいるのが現状である。

北陸の県協会の情報に触れる機会があり、オリエンテーリング再興の道について考えてみました。

まず、初めにオリエンテーリングが我が国に導入されて間もない1978年度に徳島県で開催された西日本大会を見てみました。主管は日本オリエンテーリング委員会と徳島県オリエンテーリング委員会です。徳島県の方々によって運営されていた大会でした。

また、クラスはB,Cクラス、若年者クラスが豊富に設けられ、徒歩OLも6クラスが設定されていました。四国4県からの参加者は地元徳島や高知が目立ち、全国的な大会でしたが、地元参加者や上を目指す参加者が多くおられました。広島、岡山からの参加者も多く、その所属も地域クラブや企業のクラブが多くみられ、身近な人々がつながりあってクラブ活動がされていたことがうかがわれます。ちなみに私の所属していた三河OLCから13歳の少年をはじめ14名参加 愛知県最大のクラブ愛知OLCから22名参加があり、クラブ内でも一丸となってオリエンテーリングを楽しんでいました。

昭和53年度1978年度)西日本大会(徳島市)  
参加者数 ( )内は四国4県と推定される数

個人クラス	男子クラス参加者数	女子クラス参加者数
21A	147	16
21B	55(2)	3
35A	59	4
35B	15	1
43A	37	4(2)
43B	10	2
43C	3	
50A	13	
50B	7	2
60	9	
19A	50(1)	7
19B	12	4
17A	18	5
17C	14(3)	5
15A	15(1)	1
15B	3	1
13A	7(1)	
13B	6(1)	
13C	2	

12B	6	
12C	5	
徒歩 OL		
男子	5 組 (4 組)	
女子	3 組 (3 組)	
混合	5 組 (3 組)	
家族	8 組 (8 組)	
親子	2 4 組 (21 組)	
少年少女	1 3 組 (13 組)	

オリエンテーリングを始めるきっかけとして、他のスポーツ同様、身近な人がやっていることは大きな要素である。

三河 OLC においても、発足当初は大会で見かける同じ市内の人、親戚同士、職場が同じなどそういう身近な人々が鎖のようにつながって出来上がっていました。

それから 50 年近くたち、近年、オリエンテーリング協会の運営者がほんの僅かしかないという状態は北陸のみならず、東海地区でも三重県や岐阜県で発生している。

地域の愛好者が少ないということは、本来県民市民のための市民大会、県民大会が、大会の趣旨・目的にそぐわないものになっているということである。三重県オリエンテーリング協会では県レクリエーション協会主催のみえスポーツフェスティバルのオリエンテーリング大会を開催している。本来三重県民のための催しであるが、現状参加者はほとんど愛知県在住者である。また、岡崎市主催で岡崎市民のための岡崎市民大会においてもほとんど市外からの参加者である。一方、愛知県民大会ではかなりの県民参加者がありほぼ目的を達成している。

一方岐阜県においては体験コーナーや教室など地元対象の行事を年数回実施しており、地元への貢献という点では優れたものになっているが、オリエンテーリングの定着という意味ではなかなか成果が見えず、参加者の 1 回きりの体験で、健康づくり

などの目的が達成できているかという点で不十分な気がします。私も今まで、さまざまな体験コーナーや教室を担ってきましたが、その成果が目に見えず、次につながる大会など実践機会のつながりが必要と思っています。県内、近隣県という容易な移動範囲で連携した流れができることや声掛けなどで、オリエンテーリングが続けて体験できることが、励みになると思います。

また、大学クラブにも期待したいと思います。大学クラブも停滞傾向ではありますが、なにか大学で活動してみたいと考えている新生にとっては、高校時代に経験者が少ないオリエンテーリングはとりつきやすく、大学という限られた空間では仲間意識も生まれやすく、成長の可能性の高い環境だと思います。

また、高校時代にオリエンテーリングを経験した人々はクラブのない大学でクラブを作ってやっていただきたいです。それには協会や地域クラブの方々のバックアップが必要です。

ぜひ、皆さんのお知恵で、息の長いオリエンテアを育てたいものです。



# ウォーキング

## 永井 昇 さんのレポート

### 令和6年6月11日 東海の三尾瀬「葦毛湿原」を散策

この日のウォーキング参加者は15名で、知立駅から名鉄電車で豊橋駅まで行き、更に豊橋の路面電車に乗り、終点の赤岩口駅まで行き、ここからウォーキングの始まりです。

朝倉川の河川敷遊歩道を歩き、多米公園にて昼食休憩する。



ここからボランティアのガイドさんの案内で湿原入口の駐車場付近まで誘導していただきました。

ガイドさんの説明によると「この河川敷の木は昔、地元住民が3m置きに木を植えよう！」とそれぞれが好きな木を植えたもので、今は大きく育ってはいますが雑木林となっています。

湿原入口では事前に予約をしてあったようで、代わりのガイドさんが湿原内を先導：説明してくれました。

湿原内の木道歩きも平日のせいとか我々の他は数組程で、気楽に右・左とレーンを気にすることなく

見渡すことができましたが、植生の花等は暑さのため時期がずれたのか期待したほどではなく、小さな苔類や草花も目の悪い小生にはハッキリと見えませんでした。

朝倉川沿いの遊歩道や葦毛湿原の爽やかな風を浴び、十分にリフレッシュできました。

湿原の木道を散策後は最寄りのバス停まで歩き、バスで豊橋駅まで戻りました。

豊橋駅で解散し、再び名鉄電車で帰りました。

往路ルート：自宅～m～保健センター～知立駅  
豊橋駅赤岩口駅

～～多米公園休憩昼食～km～葦毛湿原

帰路ルート：葦毛湿原～km～バス乗り場湿原入口  
豊橋駅知立駅～～自宅

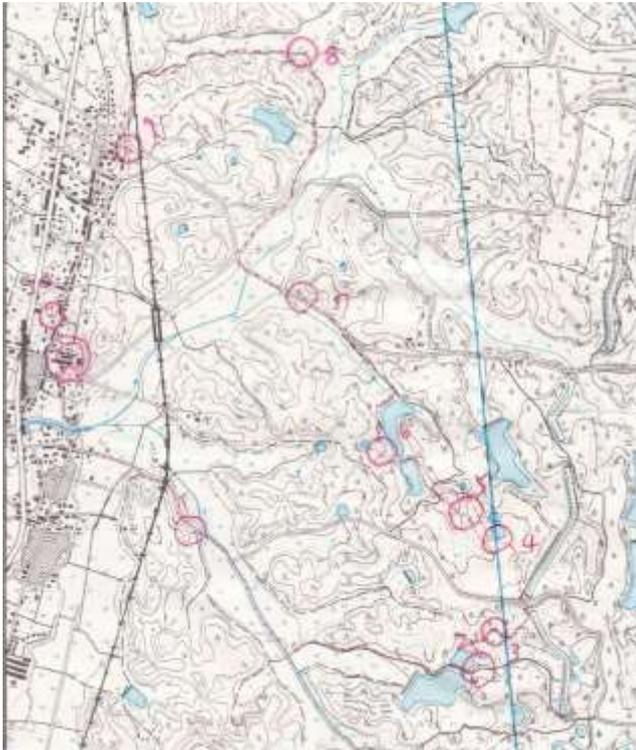
合計歩行距離 9.3km



# 思い出のオリエンテーリング

## コース印刷

大会で自分の回るコースは最初、マスターマップという形で提供されました。所定の時刻にスタートして数メートル先に置かれたコース地図(マスターマップから)自分でコースを写し取って、走り始めるというものでした。下は昭和50年の名鉄知多奥田駅オープン記念の大会で私が使った地図です。コントロール間の破線はおそらくレース後に記入したものです。



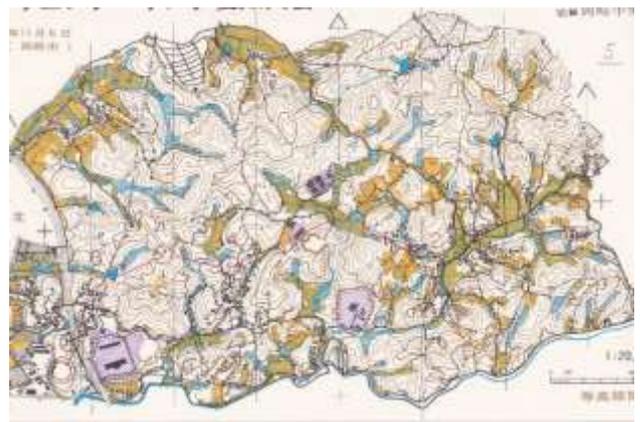
↑ マスターマップから転記した競技地図

その後、コースは主催者によって、地図に印刷されるようになりました。日本オリエンテーリング協会が主催するような大きな大会ではオフセット印刷で印刷されましたが、クラブ主催大会では当時、庶民の一般的な印刷手段であった謄写版印刷が使われていました。例えば、クラブ機関紙や大会要項もその印刷でした。



↑ 謄写版で印刷した愛知大会でのコース

印刷された地図の上にコースを印刷するので、地図との位置合わせに大変苦労しました。画像の地図右上に表示されている十字(トンボ)が左右にあり、これにガリ版で印刷された赤インクの十字がぴったり合っており、かなり正確に印刷されたことを示しています。



↑ 地図の外側に印刷された4か所のトンボ

この地図では上下左右4か所にトンボを置いてあ

り（上のトンボは磁北を示す矢印と兼ねている）

#### コース印刷の手順

各地でやり方は少しずつ異なっていると思います。「オリエンテーリング地図の作成」という本とも以下のやり方は少し違っていますが、三河 OLC では以下のやり方でした。（記憶なので少し違っているかもしれません）

- 1, コース毎のマスターマップを作製する
- 2, マスターマップの上に謄写版印刷の蠟原紙を重ね、コースと 4 か所のトンボを鉄筆で写しとる。
- 3, やすり板の上で蠟原紙のコース版を作成する。
- 4, コース版を謄写版に貼り、印刷される側に固定されたプラスチックフィルム（4 か所のトンボの内、上下、左右いずれかのトンボはフィルム印刷されるように、他のトンボとコースは地図に印刷されるようにくり抜いておいた？）に赤

インクで印刷する。数枚印刷し、安定したら、フィルムに印刷される蠟原紙のトンボをセロテープでふさぐ（フィルムに印刷されたトンボを鮮明に保つため）

- 5, 地図をフィルムの下に入れ、フィルムのトンボと地図のトンボを合わせる。
- 6, 印刷をし、トンボで位置がまっているか確認し、正確に印刷されたか確認をする。

また、三河 OLC では市販の謄写版印刷器ではガタが大きいということで、クラブ員の徳永さん作製の特性の謄写版印刷器を用いていた。

謄写版印刷の詳細は以下をごらんください。

[謄写版 - Wikipedia](#)

## 東海地区オリエンテーリングクラブ連絡協議会

7月13日（土）午後 名古屋南生涯学習センターで開催され、9クラブ・協会の10名が出席した。今回は静岡県が当番ということで浜松 OLC の山本徳子さんが司会となり、進められた。

今後のイベントとして飛騨高山城山公園トレーニングイベントなどが上げられた。また、東海クラブカップリレーは来年3月23日に浜松市の中田島砂丘で、東海地区のクラブ外にも参加枠を広げて開催することが承認された。

続いて、会則の見直しが議論され、会員として東海4県の学校、職場、一般のクラブに加え、県協会が加えられた。

尚、例会は2年前から年、数回から7月と1月の2回に集約され、進行役も4県持ち回りで担当することになっている。また、開催時刻も夕方から午後になり、早められ、例会後には食事に出かけることも通例になっている。

## お知らせ

【変更になる場合もあります。HP ([シニアのオリエンテーリング \(catvmics.ne.jp\)](http://catvmics.ne.jp)) でご確認ください。】

**12月～1月 東三河ふるさと公園(豊川市)で大会を予定**

昨年6月の大雨により一部の園路が通れなくなり、

その復活もやっとはじまったばかりです。また新しい舗装遊歩道の工事もしばらくかかりそうですが、今年終わりごろには、大会が開けそうです。